dCS
VIVALDI
Transport

Upsampling CD/SACD Transport

v.1.20

取扱説明書

株式会社 太陽インターナショナル

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-12-9
日本橋グレイス 1F
Tel : 03-6225-2777 Fax : 03-6225-2778
<URL> http://www.taiyo-international.com

目次

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）..... 3
[設置上のご注意] 3
[お手入れについて] 3

初めてのヴィヴァルディ・トランポート..... 4
梱包 4
安全のための注意 4
AC 電圧設定 4
電源ケーブル 4
メインコンディショナー 4
設置 5
演奏可能ディスク 5
演奏不可能ディスク 5

セットアップガイド 6
最初に 6
[セルフチェック] 6
STEP 1：デジタル出力の接続 7
[デュアル AES ソースとの接続] 7
[AES3 または SPDIF 出力の接続] 8
[SDIF インターフェイスの接続] 8
STEP2：シンクロモードの選択 9
[DAC をマスターモードにする] 9
[CD/SACD システムでマスタークロックを使用する] 10
STEP 3：ディスクの演奏 11
その他、推奨事項 11

フロントパネル 12

リアパネル 15

ソフトウェアメニュー.....17
メニューを使う.....18
INFORMATION メニュー.....19
トランスポート SETTING（設定）メニュー.....20
CONFIGURATION メニュー.....21
DISPLAY SETTING（ディスプレイ設定）メニュー.....22
GENERATOR (発振) メニュー.....22

メンテナンス.....23
保守，サポート.....23
AC ヒューズの交換.....23
ケースのクリーニング.....23
保証.....24
[使用環境].....24
[ソフトウェア・アップデート].....24

仕様.....25

問い合わせ先.....26

ご使用になる前に（安全にお使いいただくために）

本機をご使用になる際には、安全上のご注意をよくお確かめ下さい。
以下の注意事項は安全にお使いいただくために大切な内容です。必ず守るようにして下さい。

⚠警告：誤って取り扱うと、死亡や重傷などに結びつく可能性があります。

⚠注意：誤って取り扱うと、傷害または物的損害などの発生に結びつく可能性があります。

[設置上のご注意]

⚠警告

- 定格電圧AC 100V にてご使用下さい。
- 付属の AC 電源ケーブルは、本機専用ケーブルですので他の機器に使用しないで下さい。
- ケーブル等の接続はこの取扱説明書に従って確実に行って下さい。不完全な場合には接触不良を招き、火災の原因になります。
- AC電源ケーブルをコンセントから抜くときは、プラグを持って抜いて下さい。コードを無理に引っ張ったりして抜くと断線または接触不良を招き、感電や火災の原因になります。
- AC電源ケーブルを無理に折り曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、継ぎ足す等の加工は行わないで下さい。火災や感電の原因になります。
- 本機の改造や部品の変更は絶対しないようにして下さい。火災や感電、故障、ケガの原因になります。
- 水など塗れた手で電源ケーブルを抜き差ししないで下さい。感電の原因になります。
- 本機内部に水をこぼしたり、ピン等の金属類を入れないで下さい。感電や火災の原因となります。
- 万一、煙が出たり変な臭いがするなどの異常状態が起きた場合は、すぐにAC電源ケーブルを抜き、異常状態がおさまったことを確認してからお買い求めの販売店、または当社サービス課まで修理を依頼して下さい。そのまま使用すると、火災・感電の原因になります。

⚠注意

- 本機を設置する際にはこの取扱説明書に従って確実に行うようにして下さい。
- 本機の取り出し、及び設置する際には細心の注意をし、慎重に行うようにして下さい。落下等でケガや物損を招く原因になります。
- 湿度の多い場所で使用しないで下さい。結露等により故障の原因となります。
- ゴミやホコリの多い場所では使用しないで下さい。
- 室内温度が5℃～40℃の範囲でご使用下さい。
- 振動が多く、水平でない場所には設置しないで下さい。機器の落下等でケガや物損を招く原因になります。
- オーディオラック等に納めてご使用になる場合、通風をしっかり取るなど熱のこもりには充分注意して下さい。故障の原因になる場合があります。

[お手入れについて]

- 本体の汚れは、柔らかい乾いた布（シリコンクロス等）で軽く拭き取ってください。ベンジンやシンナーなど揮発性の薬品のご使用は、絶対におやめください。本体の表面が変質する恐れがあります。

⚠注意

- リアパネルの端子等のお手入れの際には、必ずAC電源ケーブルを抜き電源をお切り下さい。感電の原因となることがあります。

初めてのヴィヴァルディ・トランポート

使用前に本項および「セットアップガイド」（P.6）をぜひお読みください。効率的かつ安全にシステムを設定するのに役立ちます。

dCS 製品は必要に応じてソフトウェア・アップデートを行っています。本機は CD-ROM によって、ご自身でアップデートできるように設計されています。ソフトウェアが更新された際にはご案内しますので、ユーザー登録を行っていただきますようお願い致します。

梱包

本機の梱包には下記の物が入っています。

・ヴィヴァルディ・トランスポート本体
・取扱説明書
・保証登録書
・パワーケーブル
・AES/EBU ケーブル
・BNC ケーブル
・ヒューズ（スペア）×2

リモートコントロールについてはオプションでのご用意になります。（VIVALDI DAC に付属）

上記リストに照らし合わせて内容を点検ください。損傷があったり、部品の欠品があった場合にはすぐに販売店にお知らせください。本機の梱包材は箱を含め保管くださいますようお願いいたします。

本機の保証カードは保証登録書での登録後、お手元にお届けいたします。

安全のための注意

本機のサービス用パーツは供給されておりません。内部には高圧電流が流れている箇所もあり、ユーザーご自身で本体の分解、または内部を開けることなどは危険です。本機自体が不具合である場合には販売店、または当社にご相談ください。

AC 電圧設定

初めて本機をセットするとき、ご使用の電圧と合致しているか再度ご確認ください。本機は 50 ／ 60 サイクルどちらにも対応します。リアパネルの AC 入力部の下に電圧表示があります。万一ご使用の電圧と表示が異なる場合には決して本機をご使用しないで下さい。電圧が異なる場合、本機に致命的な損傷を与える可能性があり、保証の対象外となります。また電圧変更をご自身でなさらないでください。

電源ケーブル

常識的な AC ケーブルをご使用ください。一部のオーディオファイル用パワーコードは必要以上に重く、入力部を破損しかねません。保証対象外となりますので、十分ご注意ください。

メインコンディショナー

メインコンディショナー、クリーン電源等の使用は推奨いたしません。メインコンディショナー、クリーン電源等の使用によって本機が故障した場合、保証対象外となりますのでご注意下さい。

設置

ヴィヴァルディシリーズ機器は積み重ねて使用することは可能ですが、各ユニットの共振を抑える為には一台ずつラックで使用することをおすすめいたします。他のシステムとの接続にはケーブル類はある程度の余裕を持って接続してください。またオーバーヒートを防ぐために本機の周囲には適度なスペースを空けることを心がけてください。

本機には 4 本のベースフィートによって支持されています。3 点支持をお好みの場合には、後側の脚部 2 本を図 1 のように反時計回りに回し取り外します。図 2 の脚部のネジを 2.5mm 六角レンチで外して、リアパネルに近い中央部分に移動します。脚部のボルト状のネジ穴に慎重にねじ込んでください。

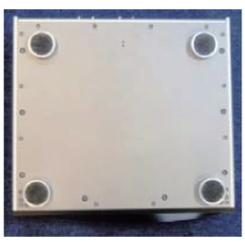


図 1

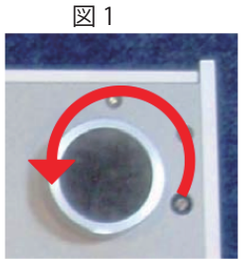
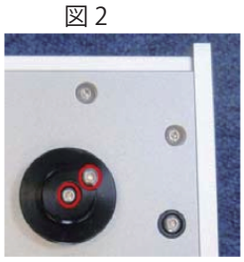


図 2



脚部は水平になるように出荷時に調整されていますが、システム等の関係で再度調整が必要な場合には 3 点支持にて調整して下さい。3mm の高さ調整が可能です。

演奏可能ディスク

市販の CD は次の条件を満たすものについては演奏可能です。

- 12cm, 8cm の円形ディスク
- リニア PCM デジタルオーディオデータによる録音のもの
- CD ロゴが印刷され、レッドブック規格により録音、製造されたもの

市販の SACD, ハイブリッド SACD は次の条件を満たすものについては演奏可能です。

- 12cm, 8cm の円形ディスク
- SACD 層が DSD デジタルオーディオデータによる録音のもの
- SACD ロゴが印刷され、スカーレットブック規格により録音、製造されたもの

CD-R
CD-RW

CD フォーマットのオーディオデータで記録された CD-R または CD-RW ディスクは再生できるかもしれませんが、不具合等起きても責任は負えませんのでご了承下さい。

演奏不可能ディスク

下記のディスクを使用して不具合等起こった場合は責任を負えません。

- 傷、汚れ、湾曲したディスク
- プリンタブルディスク、ラベルの張ったディスク
- 円形ではないディスク
- DVD, CD-G, CD-EXTRA, PHOTO CD, CD-ROM, DVD-ROM
- CD フォーマット以外のフォーマットで録音されたデジタルディスク（FLAC, WAV ファイルなど）
- レッドブック CD 規格に合致しないコピーコードディスク。

※CD ロゴがついていても、規格外のフォーマットで制作されたディスクが存在しています。このような演奏が出来ない、または、正しく演奏できない CD については CD 販売元にご相談下さい。

セットアップガイド

この項は基本的な動作を行うためのセットアップガイドです。

[表示、フォントの意味]

この取扱説明書で使用されている文字色は、下記の内容を示しています。

- 青：コントロールとコネクターについての記載
- ピンク：メニュー、またはセッティング
- グリーン：ディスプレイ表示

最初に

メニュー・セットアップガイドシートはメニューツリーを表示し、一般的なセットアップをご説明します。
デジタル接続を行いますので、デジタル用のケーブルをご使用下さい。

- AES/EBU のケーブルはインピーダンスが 110Ω の専用デジタル信号用ケーブルをご使用下さい。
- SDIF, クロック、SPDIF BNC のケーブルにはインピーダンスが 75Ω の専用デジタル信号用ケーブルをご使用下さい。
- SPDIF,RCA には 75Ω コアキシャルケーブルをご使用下さい。
- トスリンク にはトスリンク用の光ファイバーケーブルを使用します。
- トランスポート リアパネルの AC 入力に AC コードを接続します。

SDIF, クロック用に使用するケーブルはシンプルな DC カップルド接続のインターフェイスケーブルが必要です。市場にはコンデンサーを介在させたケーブル、内蔵のネットワークを備えたケーブルなどがありますが、このようなケーブルをご使用になりますと、誤動作したり、場合によっては全く動作をしないことが報告されております。ご注意下さい。

[セルフチェック]

本機の電源を入れます。リアパネルのパワースイッチを I にセットし、フロントパネルの Power ボタンを押すと約 30 秒間で本機はセルフチェックを行います。ディスプレイは Vivaldi Transport と表示します。もし本機が上記の表示がされない場合には、次の手順でリセットします。

Menu, ►, ►, Menu, ◄, ◄, Menu.

STEP 1：デジタル出力の接続

CD、SACD どちらをお聴きになる場合でも AES1+2 インターフェースで DSD データ、CD フォーマットデータを送り出します。ほとんどの方は AES1+2 のみで使用するのが一般的ですが、本来の CD データ（16 bit/44.1kS/s）を好まれる方もいらっしゃいます。

［デュアル AES ソースとの接続］

ヴィヴァルディ DAC をご使用の場合は、AES1+2 がメイン出力となります。

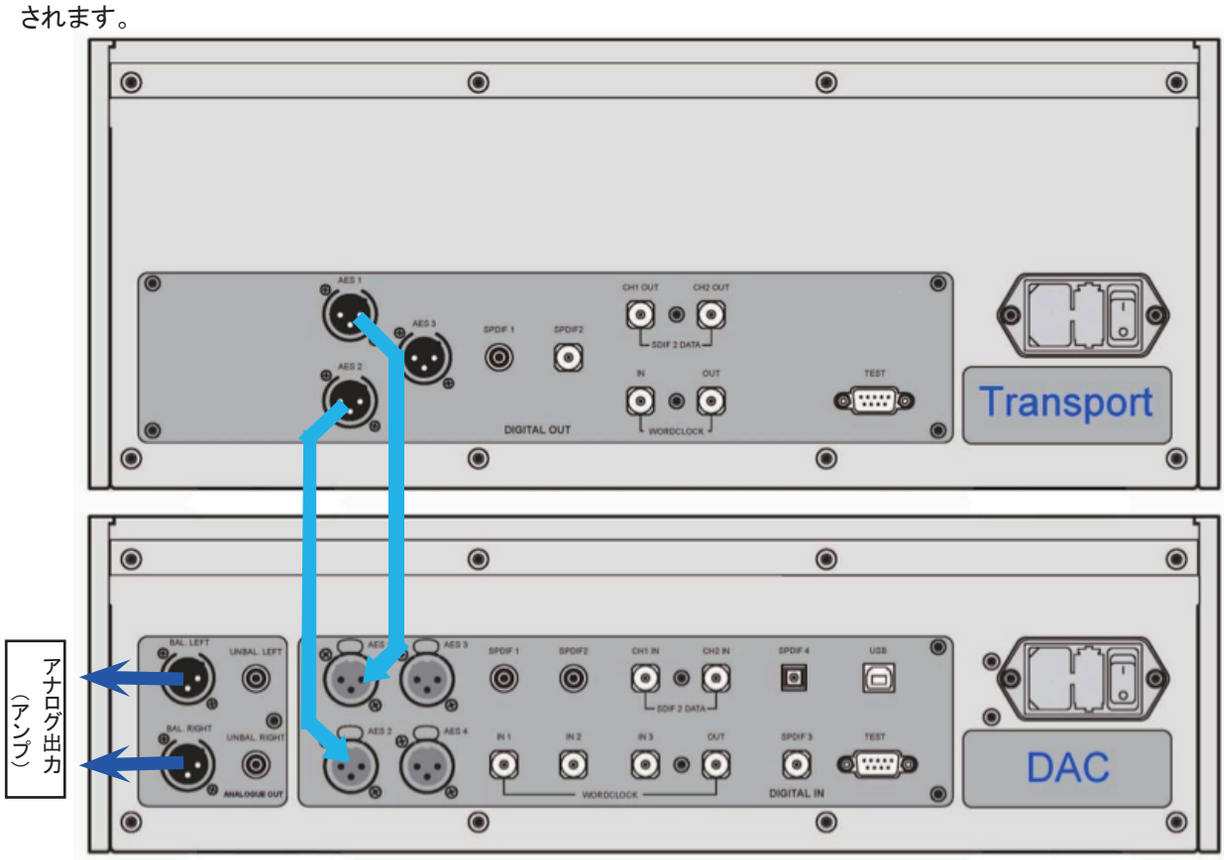
・ソース機器がデュアル AES 対応であることを確認します。

・トランスポートの AES1 出力をヴィヴァルディ DAC の AES1 入力、AES2 出力を DAC の AES2 入力と接続します。ケーブルの出力と入力を差し間違えのないようにご注意ください。

・DAC の入力（Input）ボタンでディスプレイに AES 1+2 と表示されるまで入力ボタンを何回か押します。

ヴィヴァルディ DAC は AES 入力が 2 系統あります。AES3,AES4 が第 2 入力です。こちらの入力をご使用の場合は Input ボタンを、AES3+4 と表示されるまで数回押します。

DAC がソースにロックした状態の時、ディスプレイには左の同期（Audio Sync）アイコンと［DSD］が表示されます。



基本のセットアップ

[AES3 または SPDIF 出力の接続]

・適切なケーブルでトランスポートの出力と、同じターミナル端子の DAC 入力を接続します。
・ DAC の Input ボタンを押し、ソース機器の出力とマッチする入力を選択します。AES1, AES2, AES3, AES4, SPDIF1(RCA), SPDIF2(RCA), SPDIF3(BNC), Toslink のどれかです。

DAC は入力ソース機器とロックします。ディスプレイは 16/44.1 と表示します。

ご希望ならば、トランスポートからトランスポートから DAC 入力 AES 3+4 に接続できますが
この入力はヴィヴァルディアップサンプラーとの接続を考慮した入力です

DAC はソース機器とロックし、オーディオ同期（Audio Sync）アイコンと 0/44.1 が表示されます。

[SDIF インターフェイスの接続]

・トランスポートの CH1/CH2 出力と DAC の CH1/CH2 入力とをそれぞれ、75Ω の適切なケーブルによって接続します。ケーブルを CH1-CH2 と差し間違いのないように注意してください。
・DAC の Input ボタンを押し、ディスプレイに SDIF が表示されるまで数回押します。

DAC はソース機器とロックし、オーディオ同期（Audio Sync）アイコンと 0/44.1 が表示されます。

DAC が 0/44.1 と表示したらどこかおかしいのでしょうか？

問題ありません。CD が挿入され、演奏が行われていない状態では 44.1kS/s のキャリア信号は伝達されていますが、データは伝達されていません。—デジタルサイレンスです。DAC は、ディスクが演奏されるまで、アクティブデータビットが 0 と正しく判断しています。演奏すると、DAC は 16 アクティブビットを検出し、ディスプレイにその通り表示します。ディスクによっては、トラック間の無信号状態の時にも 0/44.1 と表示されることもあります。

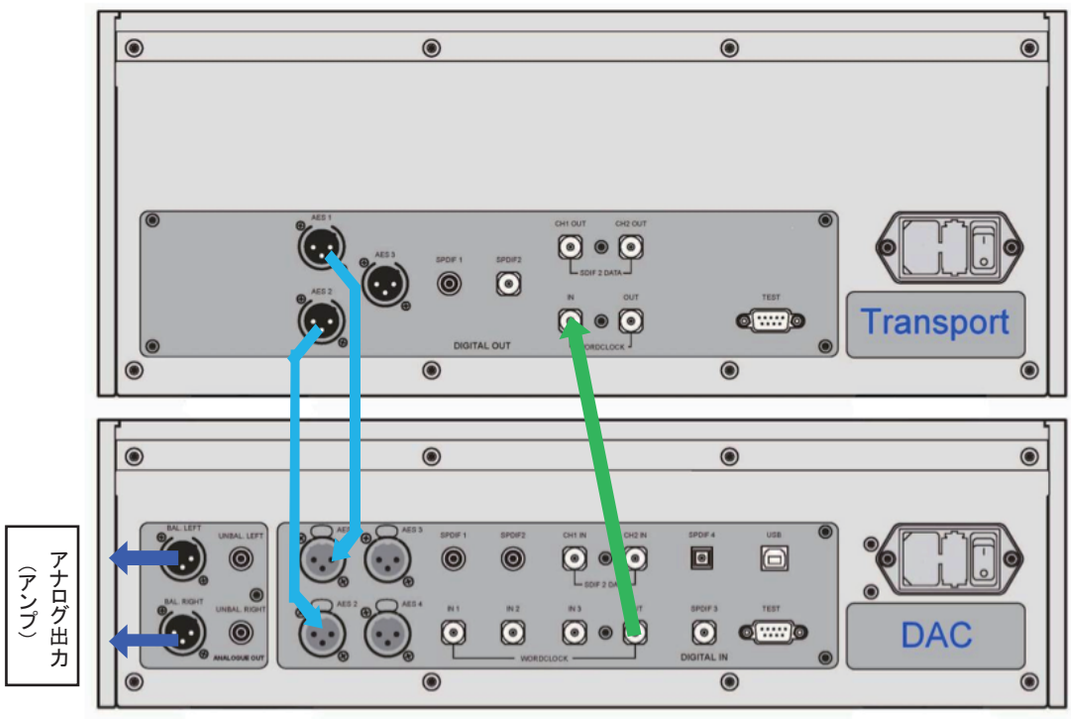
Step2 へ進む

STEP2：シンクロモードの選択

この段階でシステムはソースによって起動されるワードクロックにロックしています。これは最も単純なセットアップですが、クロックジッターによってベストの音質が得られる状態ではありません。

[DAC をマスターモードにする]

（ヴィヴァルディクロックをご使用の場合は次のページへ。）
以下の様に接続し、ヴィヴァルディ DAC のワードクロックをマスターに、トランスポートをスレーブモードにすることでジッターを減少させることが出来ます。



DAC をマスターモードにしてトランスポートと接続する

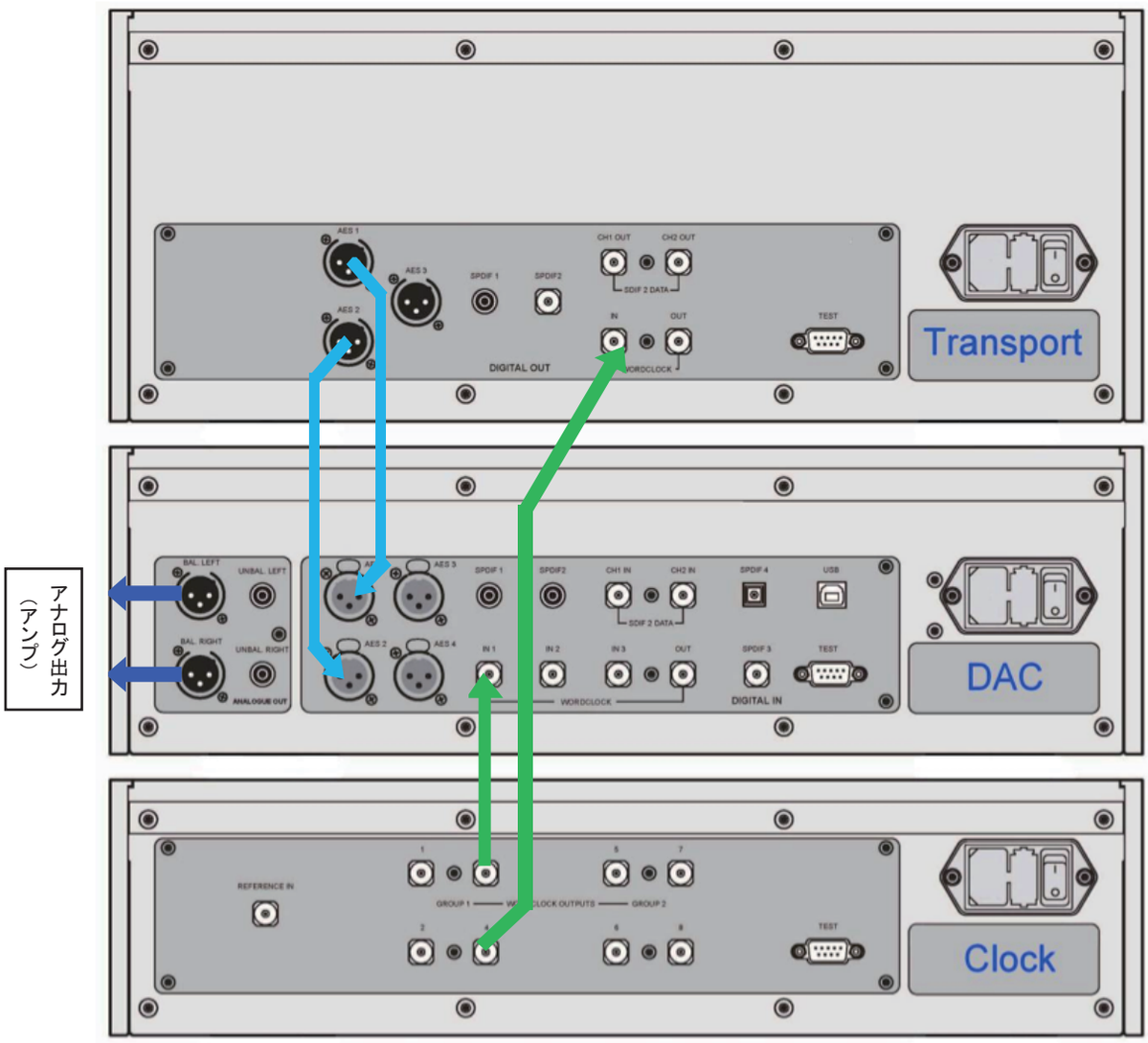
・DAC 入力ボタンでご使用になる入力を選択。（例えば，AES1+2 など）
・DAC のワードクロック出力（Word Clock In）と、トランスポートのワードクロック入力を接続します。

DAC 設定の同期設定モード（Sync Mode）メニューからマスターモードに設定します。
Settings>Sync Mode → Moater

トランスポートはワードクロックにロックして左のアイコンが表示されます。

[ヴィヴァルディ・マスタークロックを使用する]

ヴィヴァルディ・クロックを追加することによってパフォーマンスは向上します。



DAC，トランスポート，マスタークロックの接続図

・DAC の入力ボタンによって、使用する入力を選択。（AES1+2 など）
・クロックの Group 1 Wordclock Output と、トランスポート、DAC それぞれの Wordclock Input 端子（ワードクロック入力）を接続します。
・ クロックの Freq1 （周波数）ボタンによってグループ 1 のクロック出力周波数を、トランスポートに併せて 44.1kHz にセットします。

トランスポートはワードクロックとロックし、ディスプレイには左のアイコンが表示されます。

DAC 設定の同期設定モード（Sync Mode）メニューページからワードクロック入力に進み、システムが再びロックするように設定します。Settings>Sync Mode → Word Clock In1

Step3 へ進む

STEP 3：ディスクの演奏

・Stop/Eject ボタンを押します。

ディスプレイは OPEN と表示されます。

・ラベルを上面にしてディスクをトレイに載せ、Stop/Eject ボタンを押します。

ディスプレイには CLOSE と表示され、次に LOADING と表示されます。CD もしくは SACD とディスクが識別され、トラック数、全演奏時間と共にディスプレイに表示されます。本機はハイブリッドディスクでは SACD 層を優先的に演奏するようデフォルトセットされています。レイヤー（Layer）ボタンによって CD 層を選択することもできます。

・Play ボタンを押します。ボリュームを調整します。
（全てのディスクは、ディスクタイプと残り時間がディスプレイに表示されます。）
・Play/Pause ボタンで、一時停止と演奏が行えます。
・FFW , FRV ボタンで次のトラックへ進んだり、前のトラックへ戻ります。
・ FFW または FRV ボタンを押し続けることによって、2倍速でトラックを演奏します。それ以上の速度で進めるには、リモートコントロールの << または >> ボタンを押し、2倍、4倍、8倍を選択します。（詳しくはリモートマニュアルを参照ください。）
・Stop/Eject ボタンを押すことによって演奏を停止します。もう一度押すとトレイが開きます。

リモートコントロール操作では他のコマンドも出来ます。例えば、トラック番号選択、時間表示選択、リピートトラック、トラック再生順のプログラミングなどです。

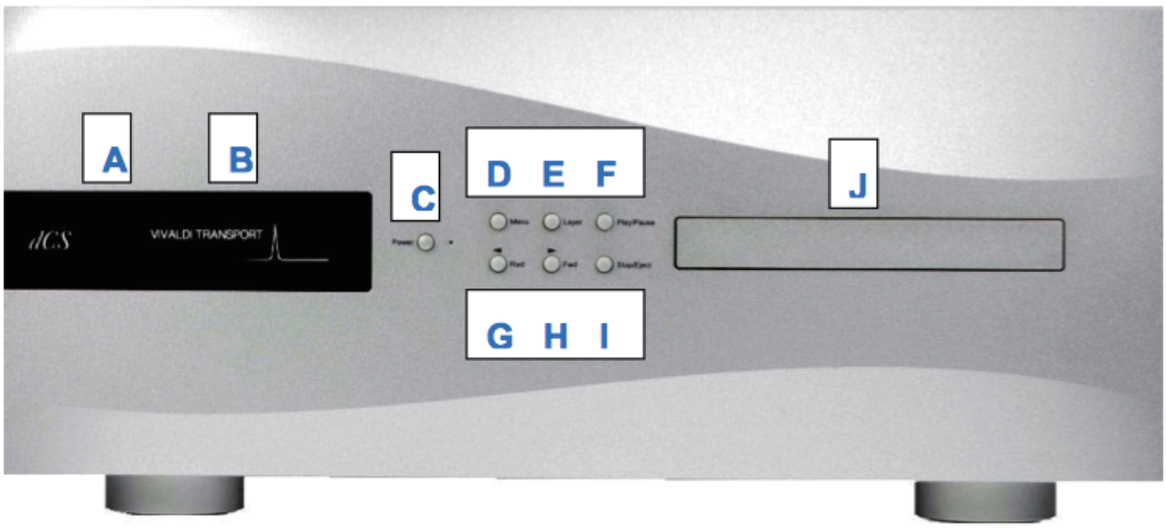
[トラックの再生順をプログラム]
トラック順を 6-8 とプログラムするには、ディスクを停止させて、リモコンの Program(プログラム) ボタンを押します。トランスポートは PGM Mode, 0PGM0 と表示。一例として、6 または 06 と押すと、ディスプレィは 6PGM1 と変わります。次に 8 または 08 通すとディスプレイは 8PGM2 と変更されます。Clear ボタンは最後に入力したトラックの全てをキャンセルします。スタートさせるとプログラムしたトラック順に演奏します。プログラムモードをキャンセルするにはリモートコントロールの Program(プログラム) ボタンを押すか、CD トレイを開けることでキャンセルできます。

演奏が終わりましたら、システムをスリープモードにして準備態勢にしておくか、またはスイッチオフにします。スリープモードにするには Power ボタンを軽く押します。スイッチオフにするには Power ボタンをディスプレイに POWER OFF と表示されるまで押し続けることで、本機の電源を切ります。

その他、推奨事項

・CD を演奏する場合に、AES1+2 出力を使用することで、DXD（24/352.8）に変更することが出来ます。メニューページの設定、アップサンプリングモードによって設定変更が出来ます。（メニューページ p21 参照）
・AES1+2 出力のみを使用する場合には、PCM Enable メニューページでPCM出力をオフ（Off）に設定します。
・ヴィヴァルディマスタークロックを使用している場合には、クロックの Dither をオンにしてみて下さい。クロック周波数を 88.2、176.4kHz にも変更してみて下さい。(マスタークロックの取扱説明書をご参照のこと。)
・ヴィヴァルディアップサンプラーもご使用の場合、トランスポートから PCM データをアップサンプラーに送り、アップサンプラーで DSD, 352.8(DXD) にアップサンプルしてから DAC に送るようにして、聞き比べて下さい。(詳しくはヴィヴァルディアップサンプラー取扱説明書をご参照。)
・ヴィヴァルディ 4 機システムをお持ちの場合には各ユニットの取扱説明書をご覧下さい。
・ヴィヴァルディ DAC で EasyPlay を設定すると、挿入されたディスクが DAC の入力にマッチするように DAC 入力は自動的にディスクのタイプに合った入力に変更されます。例えば SACD をロードした場合には、DSD フォーマットをトランスポートから送り出します。また、CD をロードした場合にはアップサンプラーからの入力を選択します。

フロントパネル



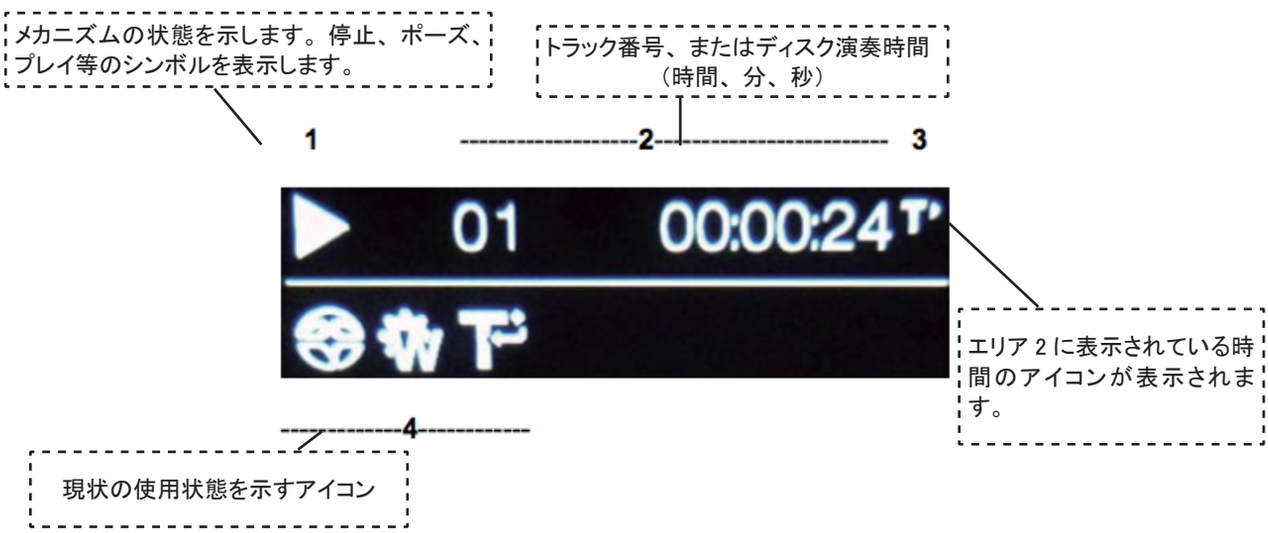
フロントパネル

(A) リモートコントロールレシーバー

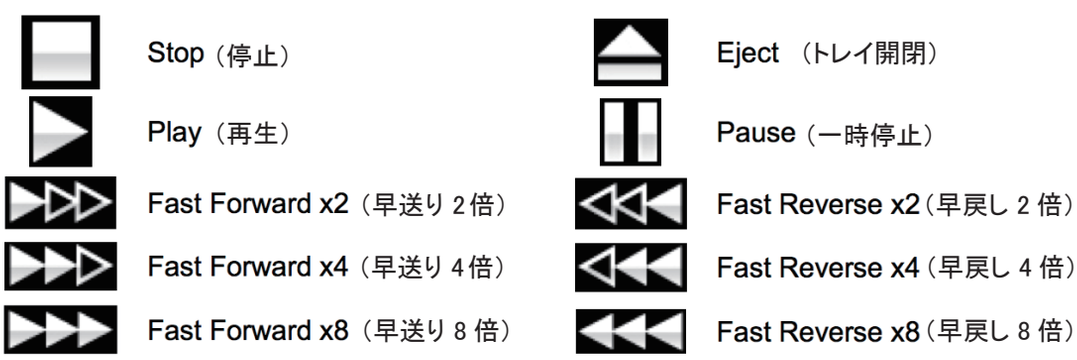
リモートコントロールを A の位置に向けて操作します

(B) ディスプレイ

通常、ディスプレイは 4 つのエリアに分割されています。



エリア 1：表示シンボルについては以下のとおりです。



エリア 2：トラック番号、演奏時間

再生時や一時停止の時には、現在のトラック番号，トラック / ディスク時間が表示されます。（時間、分、秒）
停止時には、トラック番号とディスクの総時間が表示されます。
トラックの順番がプログラムされていて、ディスクがストップしているときには PGM と表示されます。
例えば「8PGM3」は 3 つのトラックがプログラムされており、最後のトラック番号が 8 の時に表示されます。

エリア 3：表示されている時間が値するアイコン

トラック経過時間

トラック残り時間

ディスク経過時間

ディスク残り時間

エリア 4：現状の使用状態を示すアイコン

SACD が挿入

DC が挿入

ワードクロック入力がロック

同期しないクロックが接続されている

現在のトラックをリピート

ディスクをリピート

メニューディスプレイの詳細はメニューの項をご参照ください。（p18）

(C) POWER ボタン

本機の電源を入れます。リアパネルのパワースイッチを I にセットし、このボタンを押します。リモコン操作によって電源をオンオフすることは出来ません。

スリープモードにするには POWER ボタンを軽く押します。ディスプレイは消え、ボタンの上に位置する LED が点灯します。メカニズムは停止、本機は作動時に近い温度をキープします。この時、トレイが開いていれば自動的に閉まります。通常の作動状態にするにはもう一度このボタンを押します。

完全に電源をオフするには POWER ボタンをディスプレイが SWITCHING OFF と表示するまで、約 5 秒押し続けます。

メニューが開いているときは、POWER ボタンによってメニューを閉じます。

(D) MENU（メニュー）ボタン

MENU ボタンでメニューが開きます。メニューページを選択し設定の変更ができます。

(E) LAYER（レイヤー）ボタン

ハイブリッド CD/SACD ディスクをロードして、CD 層を演奏したいときは LAYER（レイヤー）ボタン（E）を押します。トランスポートは CD 層を読み、ストップします。シングルレイヤーディスクの場合にはこのボタンによる操作はできません。

(F) PLAY/PAUSE（再生 / 一時停止）ボタン

ディスクが読み取られた後、Play / Pause（プレイ・ポーズ） ボタンによって演奏開始をします。演奏後、もう一度押すとポーズになり、更にもう一度押すと演奏をします。

(G) RWD(巻き戻し) ボタン

ディスク演奏中に Rwd(巻き戻し) ボタンを押すと前のトラックを選択します。押し続けるとディスクをジョグします。巻き戻しスピードはボタンを押し続けていると 2 倍、4 倍、8 倍、と早くなります。
メニューページが開いているときは Rwd ボタンは ◀ (戻るボタン) に変わり、メニューページを戻ります。

(H) FWD(早送り) ボタン

ディスク演奏中に Fwd (早送り) ボタン (H) を押すと次のトラックを選択します。押し続けるとディスクをジョグします。早送りのスピードはボタンを押し続けていると 2 倍、4 倍、8 倍、と早くなります。
メニューページが開いていると、Fwd (早送り) ボタンは ▶ (進む) ボタンに変わり、メニューページをめくります。

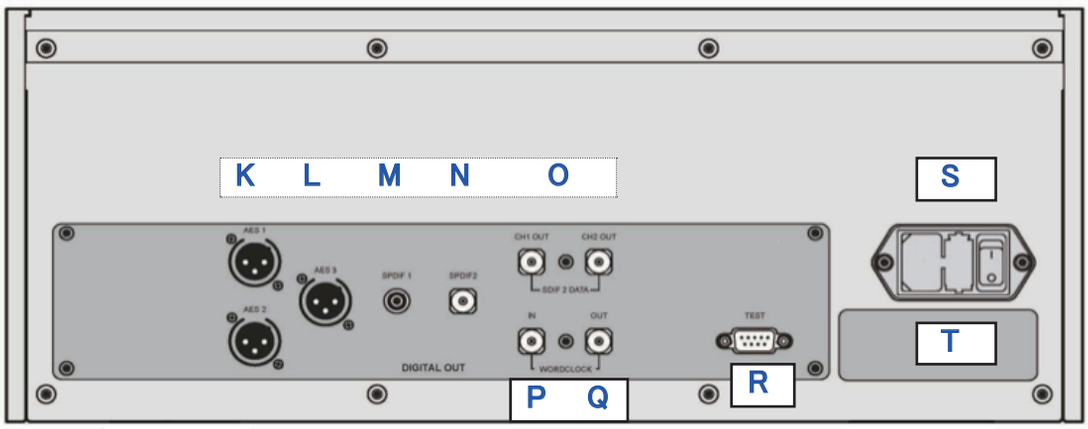
(I) Stop/ Eject (停止 / トレイ開閉) ボタン

Stop/ Eject (停止 / トレイ開閉) ボタン (I) を押すとディスク演奏は終了します。もう一度押すと CD トレイが開きます。更にもう一度押すと CD トレイは閉まります。

(J) CD トレイ

ディスクをトレイにのせるときには、ディスクの中心とトレイの中心を合わせて下さい。トレイは数分開けたまま放置しておくと自動的に閉じます。

リアパネル



リアパネル

(K) AES デジタル出力

AES1, AES2 出力 (K) はデュアル AES のペアです。SACD 演奏時には DSD データを送り出します。CD 演奏時には DSD (DoP フォーマットで) または、DXD (24/352.8k) で送り出します。これは、Setting>Upsample Mode メニューページの設定に依存します。AES1+2 が主出力となります。

AES1+2 インターフェイスはヴィヴァルディ DAC、スカルラッティ DAC v1.30 または、ﾊﾟｶﾞﾆｰﾆ DAC v1.30 と使用するように設けられております。他社製品との互換性はないようです。また、現状ではこの出力インターフェィスは他の dCS 製 DAC との互換性はありません。

(L) AES 3 デジタル出力

CD/SACD 演奏時はともに 16/44.1 AES/EBU フォーマットのデータを出力します。

(M) (N) SPDIF デジタル出力

2 つのコアキシャル SPDIF 出力があります。SPDIF 1 (M) は RCA, SPDIF 2 (N) は BNC で、出力は CD/SACD ともに 16/44.1 フォーマットです。

(O) SDIF デジタルインターフェイス

SDIF インターフェイス出力は CD/SACD が演奏されると 16/44.1 フォーマットのデータを出力します。このインターフェイスは CH1 , CH2 と 2 つあります。(BNC × 2)

(P) WORD CLOCK INPUT/OUTPUT

Word Clock In (ワードクロック入力 , P) は 44.1, 88.2, 176.4kHz のクロックを受け取ります。マスタークロック、またはマスターモードに設定された DAC から受け取ることが出来ます。

トランスポートとクロックがロックされるとこのアイコンが表示されます。

Word Clock Out (ワードクロック出力 , Q) は 44.1kHz のクロックを送り出します。
ワードクロックは同期のみに使用されます。デジタルデータは送りません。

(R) TEST（テスト）インターフェイス

RS232 インターフェイス (R) は 2 つのモードがあります。Setting>RS232 メニューページによって設定できます。

・モード T:　dCS において自動製品テストを行う際、遠隔によってユニットをコントロールする為に使用します。
・モード B:　家庭オートメーションシステム用途。

これを使用する場合には以下のサポートページからリモートコントロールコマンドをダウンロードして下さい。
www.dcsltd.co.uk. このインターフェイスはストレートケーブルで使用します。

ピンのコネクションは次の通り
・ピン 2 ー　dCS ユニット伝送
・ピン 3 ー　dCS ユニット受付
・ピン 5 ー　グランド
・シェル ー　ケーブルスクリーン、ドレインワイヤー

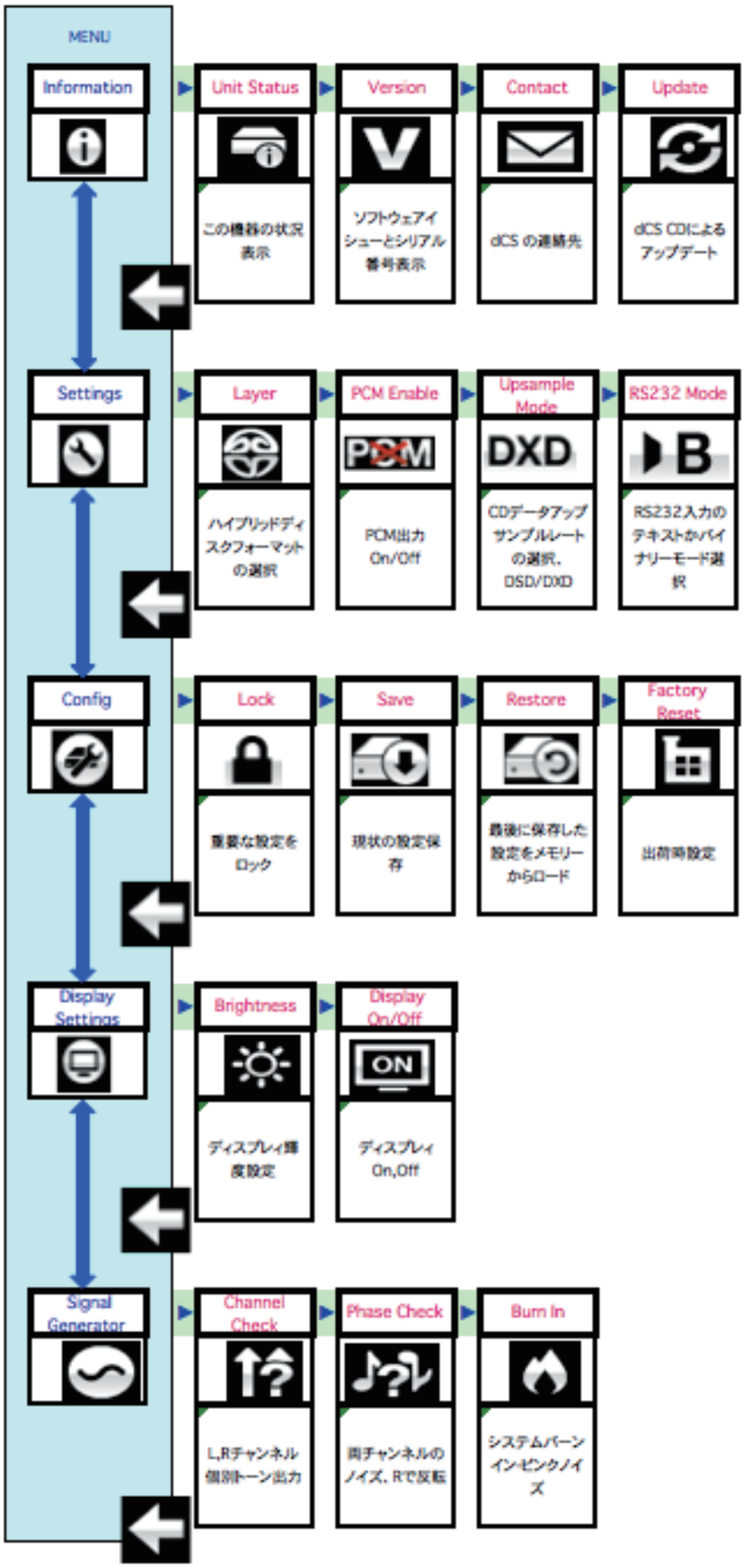
赤外線リモコンをご使用になることをおすすめします。

(S) AC 入力

(T) ラベル

ラベル (T) はシリアル番号、使用電圧が表示されています。シリアル番号はお問い合わせ等の際に必要になります。

ソフトウェアメニュー


MENU
Information
Unit Status
この機器の状況表示
Version
ソフトウェアイシューとシリアル番号表示
Contact
dCS の連絡先
Update
dCS CDによるアップデート
Settings
Layer
ハイブリッドディスクフォーマットの選択
PCM Enable
PCM出力 On/Off
Upsample Mode
DXD
CDデータアップサンプルレートの選択、DSD/DXD
RS232 Mode
RS232入力のテキストかバイナリーモード選択
Config
Lock
重要な設定をロック
Save
現状の設定保存
Restore
最後に保存した設定をメモリーからロード
Factory Reset
出荷時設定
Display Settings
Brightness
ディスプレイ輝度設定
Display On/Off
ON
ディスプレイ On,Off
Signal Generator
Channel Check
L,Rチャンネル個別トーン出力
Phase Check
両チャンネルのノイズ、Rで反転
Burn In
システムバーン イン-ピンクノイズ

メニューを使う

メニューは様々な機能にアクセスすることが可能です。また、新しいバージョンのソフトウェアにアップグレードを行うことによって、新機能を追加することが出来ます。

メニューは 4 つのボタンでコントロールします。

Menu ボタンでメニューを開く、またはセッティングを選択
▶ ボタンによってメニューのページめくり
◀ ボタンによってメニューのページ戻り。
POWER ボタンによってメニューを閉じる、または 10 秒でタイムアウト

必要なメニューはメニューガイドシートで見つけることができます。

INFORMSATION メニュー
セットアップの詳細、ソフトウェアバージョン、シリアル番号、通信先

SETTING メニュー
ヴィヴァルディ各モデルにはそれぞれ異なった設定メニューを用意しています。フロントパネルからアクセスできないメニューもあります。

CONFIGU メニュー
重要な設定をロック、標準設定とユニットのリセットを行う

DISPLAY SETTING メニュー
ディスプレイ調整メニュー

SIGNAL GENERATOR メニュー
テスト信号とセットアップチェック用

▶ ボタンによって必要なメニューのハイライトに進みます。そこで Menu ボタンを押すとそのメニューが選択出来ます。次のメニューのレベルダウンが表示されます。▶ によって必要なメニューページに進み、Menu ボタンによって情報、または設定変更が表示されます。

前のメニューに戻るためのアイコン

INFORMATION メニュー

Unit Status（使用機器の現状）を表示

・ハードウェアのコードを含むシリアル番号。
・それぞれの入力で検知されるサンプルレート
・それぞれのクロック入力で検知される周波数
・内部温度。（摂氏）

◀ ▶ボタンでスクロールします。このページはタイムアウトしません。退出するには Menu ボタンを押します。

もしシステム操作がご希望と異なっている場合、Unit Status（ユニット状況ページ）が設定エラーや接続エラーなどを発見するのに役立ちます。

Version（バージョン） ソフトウェアバージョンを表示。販売店などにお問い合わせの際にはここの情報をお伝え下さい。

・Control Board : 1.× ×
・Front Panel : 1.× ×

このページはタイムアウトしません。退出するには Menu ボタンを押します。

Contact（連絡）ページ。dCS のウェブサイト URL と E メールアドレス。このページはタイムアウトしません。退出するには Menu ボタンを押します。

Update（アップデート）機能によって、標準 CD プレーヤー、トランスポート、コンピューター（USB 経由）から新しいソフトウェアをインストールできます。レッドブック規格外の CD トランスポートはデータを変形するので使用できません。アップデートの際には説明書と CD とをお送りしますので、それをご参照下さい。

誤ってアップデートをスタートさせてしまった場合、リアパネルのメインスイッチをオフにして 10 秒ほど待ち、再びスイッチオンします。ソフトウェアは変更されません。

トランスポート SETTING（設定）メニュー

Layer(レイヤー) ページ
ハイブリッドディスクを演奏する際、ディスクを挿入し、演奏されていない状態でこの SACD レイヤーかまたは下の CD レイヤーを選択します。

レイヤーを変更して再度読み取らせる場合は Changing Layer-Please Wait と表示されます。
数秒お待ち下さい。

PCM Enable ページは CD フォーマット（PCM）出力 (AES3, SPDIF1, SPDIF2, Toslink, SDIF) を ON にします。

CD フォーマット出力をオフにします。AES1+2 のみを使用するとより静かな電気環境をもたらします。

PCM 出力を使用したい場合には再び PCM 出力を再び ON に戻して下さい。

CD 演奏時、Upsampling Mode(アップサンプリングモード) ページで、出力を AES1+2 デュアル AES 設定にした場合のアップサンプリングを DSD (1 ビット、2.5822MS/s) にする。

または DXD (24/352.8kS/s) を選択する。

アップサンプリングオフ設定の必要はありません。16/44.1 のままでお聴きになる場合には、PCM フォーマット出力 (AES3, SPDIF1 など) の一つをダイレクトに DAC と接続します。

dCS 製造検査 (Binary) モードにする。Bは工場でのみ使用します。

RS232 モード： RS232 をサードパーティーコントロールシステム (Text) モードにする。

CONFIGURATION メニュー

Lock（ロック）をかけるとこのアイコンが表示され、以下の設定が変更不可能となります。設定した周波数が誤って変更されることを防ぎます。

PCM Enable	RS 232 Mode
Upsample Mode	Factory Reset 不可

Unlocked（アンロック）
設定を変更したい場合選択してください。

Save Configuration
作動不能

Restore Configuration
作動不能

Factory Reset：工場出荷時（下記の内容）にリセットします。

- Layer – SACD
- PCM Enable – ON
- Upsampling Mode– DSD
- Display – On
- RS232 Mode – Binary
- Brightness – 最大輝度

DISPLAY SETTING（ディスプレイ設定）メニュー

Brightness ディスプレィ輝度設定。◀ ▶ボタン操作により調整します。

Display On/Off ディスプレィのオン、オフ。このページは通常 On に設定されています。

Off（オフ）に設定しメニューを閉じた場合には、ディスプレイは消えます。コントロールの設定を変更した場合には、ディスプレイは一時的に点灯します。CD トレーが空の状態か、メニューが開かれている状態ではディスプレイはオンになっています。

GENERATOR（発振）メニュー

Channel Check チャンネルチェック： チャンネルが正しく接続されているかをチェックします。ディスプレィが Left と表示している間は左チャンネルからのみ、発信音が出力されます。その後に Right と表示され右チャンネルから発信音が出力されます。逆のチャンネルから発振音が聞こえた場合には接続がどこかで間違っていることが分かります。このテストはチャンネルスワップ（Channel Swap）メニュー設定には影響されません。

Phase Check 位相チェック： 位相が正相か逆相かをチェックします。In Phase と表示されている間は、両チャンネルとも正相でチェックトーンが出力されます。Menu ボタンを押すことによって、右チャンネルの位相が逆相となります。ディスプレイは逆相（Out of Phase）と表示します。最初の発信音は 2 つのスピーカーの中央に音が集まり、逆相の場合にはそうはなりません。
◀ ▶ボタンによってこのテストを終了し、メニューに戻ります。

Burn In バーンイン： システム全体のバーンイン。（慣らし、エージングと同じ意味ですがここではバーンインとします）ディスプレイは Burn In（バーンイン）、Caution! Loud（音圧注意）と表示します。その後、ピンクノイズを発振し、ゆっくりと大きくなります。
Menu または◀ ▶ボタンによってこのテストを終了し、メニューに戻します。

ボリュームレベルが適切なレベルであるように設定してから操作して下さい。不用意に Burn In（バーンイン）を行ってアンプやスピーカーを損傷しても、dCS, 当社は保証いたしませんのでご了承下さい。

メンテナンス

保守，サポート

dCS のオーディオ機器は特に定期的なメンテナンスを必要としません。
全てのサービスおよびアップグレードは dCS 社または当社のみが行います。

AC ヒューズの交換

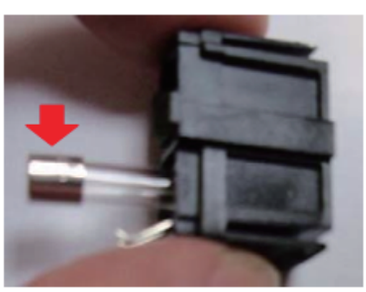
電源ソケット部にあるヒューズホルダー内にヒューズがあります。このフューズが切れた場合には、ユーザーによって交換は出来ます。ユニットの消費電力は低いので、パワーサージまたはユニットの状態によってフューズが断線します。通常はパワーサージではユニットに損傷は起こりません。しかし、フューズが何回も断線するようであれば、ユニットが故障したと考えられますので、当社にお送りいただき、修理をご用命ください。

重要：ヒューズが飛んだときは、必ず同じタイプの物と交換してください。異なるタイプの物と交換することによって製品にダメージを与えたり、引火したり、電気ショックの原因になったりすることがあります。このような場合保証の対象とはなりませんので、ご注意下さい。

[ヒューズを交換する]

パワーケーブルを抜きます。小さいマイナスドライバー 2 本によってフューズホルダー A に差し込み、ホルダーを引き抜きます。断線したフューズ（B）を取り出して入れ替えます。フューズを交換した後にホルダーを元の位置に戻します。

A



B

C

ヒューズの交換

ケースのクリーニング

ハードアルミケースの埃などを吹き払う場合には、清潔で乾燥した、何もしみこませていない柔らかい布で払って下さい。

もし、汚れがひどい場合には、ラノリンベースのクリーニング剤を、何もしみこませていない清潔で乾燥した柔らかい布を使用して、拭き取るようにします。クリーニング剤がボタンの周りに残らないように、十分ご注意下さい。

ガラスクリーナーでも少量なら、フロントパネル、リアパネル以外の部分には使用可能ですが、スプレーを吹きかけることはおやめ下さい。　コネクターなどには吹きかけないようにご注意をお願いいたします

保証

当社はお買い上げ時より一年間、本機の不良または正常なご使用状態で起きた故障等は保証書記載事項に基づき、無償修理いたします。

以下の場合には保証が適用されませんので、ご注意ください。

・いかなる場合でも本機が誤って使用された場合。
・dCS、当社以外の手によって改造や修理が行われた場合。
・本取扱説明書の使用環境に従っての使用がなされていない場合。
・グランド電源を使用しない場合。
・不適切な梱包によって返送された場合。

問題が発生した場合にはモデル名、シリアル番号、ソフトウェアバージョン、問題点の出来るだけ詳しい内容を販売店、または当社にお知らせください。修理のためご返送いただく場合には、オリジナルの梱包が安全ですので、梱包材はお手元に保管ください。梱包材が無い場合には有償でお貸し出しいたします。

[使用環境]

・リアパネルに表示してある電圧（100v）の ±10%。
・交流電源 49 ～ 62 サイクル
・使用温度　0℃～ 40℃
・以下に述べる機器近辺に設置しないこと：暖房機、空気ダクト、パワーアンプ、直射日光
・ご心配の点があれば簡単なテストとして、本機は人間が快適な環境であればまず間違いなく動作します。

[ソフトウェア・アップデート]

dCS の製品はソフトウェアを書き換えることの出来るチップを採用しております。そのため、ソフトウェアを最新のものにアップデートできます。新しい機能を加え、デジタル入力を最新のものに変更し、より優れた性能にすることが出来ます。
アップグレードは電子機器のキャパシティを上げることにも必要になってきますが、それだけでなく、新たにコネクターを追加したり、フロントパネルに機能を追加したりすることもあります。必ずしも音質を改善するものではありません。
dCS のウェブサイトをご覧になっていただき、ソフトウェアを最新版にすることを推奨いたします

アップデートソフトウェアは太陽インターナショナルにて用意しております。アップデートソフトをご要望の際には、まずお手持ちの機器のバージョンをご確認ください。メニューページを開き、info>Version から　Control Board をご覧の上、アップデートが本当に必要かご確認ください。

このマニュアルのソフトウェアは　1.20　です。

Issue1.00	最初のソフトウェア。
Issue1.01	信頼性を高めるためのアップデート。
Issue1.10	Config　メニュを追加。（ロック設定、保存とレストア） DAC の EasyPlay 機能に対応 RS232 コマンドに　Play,Pause を追加 PCM　Enable 機能の動作を正確に行う マイナーなバグ修正。
Issue1.20	RS232 のテキストモードコマンドをさらに追加

仕様

デジタル出力	デュアル AES 2 系統 （AES1+2） SACD 演奏時には dCS 暗号化による DSD データを出力 CD 演奏時はアップサンプルメニューによって DSD データ、または DXD(24/352.8kS/s) データを出力 AES/EBU（AES3）：16/44.1k を CD/SACD 演奏時に出力 2 X SPDIF： RCA, BNC は 16/44.1k を CD/SACD 演奏時に出力 1 X SPDIF：光学 TOS リンクは 16/44.1k を CD/SACD 演奏時に出力 1 X SDIF2：2 X BNC は 16/44.1k を CD/SACD 演奏時に出力
クロッキング	ワードクロック出力 1 X BNC： トランスポートマスターモードで 44.1kHz ワードクロックを内部のクリスタル発振器によって出力 精度は出荷時において +/−10ppm
ワードクロック入力	1 x BNC 44.188.2176.4k Hz のワードクロックを入力。 ロッキングレンジは +/−300ppm
外寸	444(W)×196(H)×435(D)㎜
重量	23.2 kg
最大消費電力	40 w (典型値、28w) 100V 50/60Hz フロントパネルでのパワーダウンによって 0.5w の消費電力

※ 本機の仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

問い合わせ先

株式会社太陽インターナショナル

〒 103-0027

東京都中央区日本橋 2-12-9　日本橋グレイス 1F

TEL :　03-6225-2777（代表）

03-6225-2779（サービス課）

FAX :　03-6225-2778

ホームページ :　http://www.taiyo-international.com

06.30.2015